第2号議案 「2019年度事業報告及び決算」承認の件

設立初年度の2019年度の事業は、収益の中心である助成金が未確定であったため、その採択結果に応じて執行することを前提に、以下11の課題の優先順位を決め執行しました。

1. 会員・寄附の獲得

- (1) 会員については目標55万円に対し、35万円、目標比63%と大幅な計画未達成に終わりました。
- (2) 寄附については目標の5万を大きく超え、42万円を受けることができました。
- (3) 会員、寄附は流動的なもので安定した資金確保にはならず、次年度以降も引き続きフードバンク活動を継続していけるように、賛同団体、企業などへ働きかけが必要です。

2. 助成金・補助金とその他の資金調達と活用

- (1) 助成金・補助金は、以下のような事業基盤の構築に活用しました。
 - 1) 事務所や倉庫の開設のための設備
 - 2) フードバンク運営のための備品等整備
 - 3) ホームページ構築、パンフレット等印刷
 - 4) 食品受取のための燃料費、人件費
 - 5) 子ども食堂・サロン向け食品衛生学習会開催
 - 6) 寄贈企業向け講演会開催（*新型コロナ感染予防のため次年度に延期）

3. 食品寄贈の受け入れ

- (1) 7月からの事業開始に向けて、食品の受け入れと提供の円滑なしくみの構築としてマニュアルを作成しました。
- (2) 食品提供企業からは最終的な受益者に適正かつ安全に届けられるか懸念する声がありましたが、寄贈元、提供団体の双方と合意書を交わし責任の所在を明らかにすることで信頼を得ることにつながりました。
- (3) 食品の受け入れ基準を定め、品質管理・衛生管理マニュアルの作成、トレーサビリティのしくみを構築し、万が一の事故や苦情にも対応できるようになりました。
- (4) 連携機関との意見交換が、食品関連企業や最終的な受益者へつながる情報提供や、食品寄贈の獲得、食品管理システムの無償貸出により業務の効率化にもつながりました。
- (5) 15の企業・団体・個人生産者、その他個人の方から約5.6トンの食品提供を受け、食材寄附の規模は336万円になりました。（600円/kgで換算）

4. 食品提供

- (1) 食品の寄贈と提供のバランスが難しく、当初予定していた提供を希望する団体への説明会は実施せず、寄贈量に合わせてその都度、説明や意見交換をしながら利用団体を増やしていきました。
- (2) 直接個人への支援ではなく、支援団体を窓口として提供するしくみをつくりました。しかし、個人からの支援の要望は増える傾向にあり、他団体や行政と連携して、適切に情報をつないでいくしくみづくりが必要です。
- (3) 22の子どもの居場所、8の自立支援団体、8の地域の居場所・サロン、2の災害支援、フードバンク間連携41団体（合意書32団体）に、計167回、3.5トンの食品提供を行いました。
- (4) 最終的な受益者の数の把握ができておらず、次年度の課題です。

5. 運営体制

- (1) 任意団体として立ち上げ、皆の総意で決めていくことを重視し、運営委員会は月2回を目標に、役員会は必要に応じて開催しました。

- (2) 運営規約が整っていないため、運営委員会、役員会の目的や役割を明確にすること、運営委員が皆で情報共有できるしくみを早急に作る必要があります。
- (3) 事業が一定稼働しはじめましたが、食品の受け入れと提供が増え、限られた人数（ボランティアの登録7名、継続的な活動は2名のみ）では事業の継続がきびしくなりつつあります。
- (4) フードバンク稼働日のほかにも、渉外や資金調達のための事務作業、連絡や調整業務など、事務局機能の中心を担う人材・体制の確保が必要です。
- (5) 中・長期的に法人格の取得をすることも視野にいれた事業拡大も考えると、人材確保と資金（事務所や倉庫設備の確保、運搬車両費や燃料費、人材育成のための研修費）の確保が最重要課題となってきます。しかし、現状は駐車場代や燃料費、運搬に関わる車両の提供など、個人の持ち出しによって支えられている部分が大きく、このままでは事業の存続が困難になります。

6. 食品の安全管理

- (1) フードバンクにおける「品質・衛生管理」マニュアルを作成し、それを基に食品管理、運営を行いました。
- (2) 取り扱い食品を常温品とし、食品の取扱いに関するルールを合意書において明確化しました。
- (3) 子ども食堂などの関係者に対して、食品の生産段階から食事の提供まで、「食の安全のバトン」を渡せるよう、適切な食品管理の方法や正しい手洗いなどの衛生管理について「食品衛生学習会」を2会場で実施しました。
- (4) 今後、保健所と連携し、情報交換や講師派遣依頼などを進めていく必要があります。

7. 情報発信

- (1) 8月にホームページを構築し、団体の基本情報の提供を開始しました。今後、事業報告や決算など対外的に求められる情報提供を継続できるHPの整備が必要です。
- (2) Facebook を活用して日常活動状況など「旬な」情報を提供しました。
- (3) 会員向けのニュースレターは1回しか発行できず、会員への情報発信も課題です。

8. 食品ロス削減啓発活動

- (1) さが環境フェスティバルへ出展し、フードバンク活動のお知らせ、認知度アンケートなどに取り組みました。その結果「フードバンク」「フードドライブ」の認知度が25%と低い結果になっています。
- (2) 家庭で食べきれない食品を拠点に持ちよることで、食品ロス削減、社会貢献につながるフードドライブを、コープさが生協との連携で、新栄店で8月より取り組みました。
- (3) 啓発活動を通じて、消費者の消費行動の見直しや、「消費期限・賞味期限」などをゲームを用いて楽しく学び、食品ロス削減の必要性をよびかけました。今後も、社会全体に広く食品ロス削減やフードバンク活動を広げていくことが求められます。

9. 行政、他団体との連携

- (1) 佐賀市の環境部循環型社会推進課 3R 係と保健福祉部福祉総務課を窓口として、3回の意見交換と次のような協力連携ができました。——事業進捗の報告、関連省庁からの情報の提供、公式HPでのリンク、市報での食品ロス削減とフードバンク活動の情報掲載、新型コロナウイルスのため休校になり未使用となった学校給食の食材提供の紹介。
- (2) 佐賀県とは、知事へ活動の報告をすることができました。佐賀県県民環境部循環型社会推進課や佐賀県健康福祉部障害福祉課などと連携し、省庁からの情報提供や受益者となる団体へ情報発信をすることができました。
- (3) 行政とは、今後も食品寄贈企業の掘り起こし、受益者となる団体の情報提供などの連携が必要です。

- (4) その他に8つの団体との連携がすすみました。フードバンクさがだけでは解決が困難な課題もあり、連携を継続します。

10. フードバンク間連携

- (1) 九州内のフードバンクとの連携（事業運営や食品の融通、情報交換など）にとりくみ、設立とその後の事業の安定、継続につながっています。
- (2) 全国フードバンク推進協議会には、研修会、食品管理システムの無償貸与、運営相談などの支援を受けることができました。加盟申請を行っています。今後は県内にできる新しいフードバンクとの連携も必要になります。

11. コミュニティスペースの活用

- (1) 「コミュニティスペースを活用した事業は、身近な団体を中心に、30,300円（予算10万円）の利用料となりました。集約の遅れがあったため、次年度に収益計上をします。
- (2) 自主事業（学習会やセミナー等）や地域振興の2つの位置づけで利用を増やすには、対外的に広く情報提供すること、対応人員の配置が課題です。

2019年度の到達

設立初年度として、フードバンク事業の基盤づくりを最優先した活動とします。

- ①事業運営できる体制と財源を確立します。
- ②寄贈元、提供先、その他協力関係者への情報提供と開拓をします。
- ③食品の品質管理、在庫管理に重点を置きます。

		目標	実績
1.会費・寄附	①会員	①正会員 100名 (3,000円) ②学生正会員 10名(1,000円) ③賛助会員 20名 (1口2,000円) ④賛助団体 20団体(1口10,000円) 550,000円	①正会員 54名 ②学生正会員 1名 ③賛助会員 15名 (19口) ④賛助団体 13団体 (15口) 351,000円
	②寄附	50,000円以上	419,438円
2. 助成金 補助金	①助成金	①きょうぎん未来応援基金 190,000円	①きょうぎん未来応援基金 (決定額) 190,000円
		②コープ共済地域ささえあい助成 1,000,000円	②コープ共済地域ささえあい助成 (決定額) 990,654円
		③九州ろうきん NPO 助成(予定)	③未申請
		④ふるさと納税 (調査)	④ふるさと納税 (未達成)
	②補助金		⑤連合愛のキャンパ (決定額) 200,000円 ①佐賀 CSO さいこう事業 (決定額) 300,000円 1,190,000円
3.食品寄贈	①企業 ②団体 ③個人	・地元商工会、食品関連企業訪問 ・行政の支援、協力 ・合意書作成 ・説明会 4回/年 ※当面生鮮食品は扱わない	・佐賀県中小企業団体中央会/佐賀商工会議所/佐賀県商工会議所連合会/佐賀県経営者協会/佐賀県中小企業家同友会/フード連合/佐賀県農業協同組合中央会/佐賀県有明海漁協組合 ・食品企業、団体 33カ所 (訪問・電話・メール) ・佐賀県県民環境部循環型社会推進課/佐賀県健康福祉部障害福祉課/佐賀市環境部循環型社会推進課 3R係/佐賀市福祉部福祉総務課 ・合意書作成 16団体 (5.6t) 寄贈 ※3,360,000円 (食材寄附の規模) 全国のフードバンクが基準として採用する寄附取扱量 600円/kg (合意書 11団体) ・説明会は実施せず個別訪問 ※常温品のみのお取り扱い

			一部コロナウイルス関連 冷凍品の取扱い（アイスクリーム）
4.食品提供先	①子どもの居場所 ②自立支援団体 ③地域の居場所・サロン ④災害支援	・利用登録（合意書） ・説明会（4回/年） ・災害支援団体との協力関係作り	・41団体に延べ167回提供（3.5t） （合意書32団体） ・説明会は実施せず、寄贈量に合わせて提供先の開拓 ・8月の豪雨災害では武雄市に市民団体が立ち上げた、おもやいボランティアセンターと連携 食品、雑貨等の提供
5.運営体制	①役員会 ②事務局会議 ③ボランティア 確保・登録 （運営・イベント）	1回/四半期 1回/月 10名程度 1回/週×2名作業体制 説明会	8回/年（必要に応じて） 24回/年（2回/月） 7名の登録⇒継続2名 2回/週×3～5名作業体制 説明会実施せず、適宜
6.食品の安全管理	①在庫管理（賞味期限・品質管理・衛生管理） ②トレーサビリティ ③衛生管理（提供先の学習会）	①②管理システム作成 作業マニュアル作成 ③保健所との連携	①②管理システムの構築、作業マニュアル作成 ③コープさが生協、佐賀こども食堂と連携 1/25,1/26開催 みやき会場（参加28名） 伊万里会場（14名）
	①Facebook ②HP ③ニュースレター ④メーリングリスト	①4月～ ②7月～ ③7月、1月 ④4月～	①不定期更新 ②8月～不定期更新 ③発行なし ④リストはできたが、発信は1回
	①消費者向け啓発活動 ②フードドライブ ③佐賀環境フェスティバル	①映画上映やゲーム活用 ②コープ新栄店他1回/月 ③10月開催	①8/26夏休み学習会（参加15名） フードバンクってなあに？ ゲームを取り入れた啓発活動 2/12ゆめさが大学ブース出展（参加120名） ②1回/月（第1土曜日・コープさが新栄店） ③11/9,11/10 佐賀県立森林公園 （参加のべ250名）
9.他団体との連携	①社会福祉協議会 ②行政	・意見交換会（1回/四半期）	①佐賀市社協 みやき町社協 神埼社協 鳥栖社協

			鹿島社協 ※必要に応じて 佐賀県労働者福祉協議会（2回） コープさが生協（3回） さが・こども未来応援 PJT 実行委員会 (公財)佐賀未来創造基金 コープ九州事業連合 日生協 (株)ハローズ（岡山） おもやいボランティアセンター ②佐賀県県民環境部 佐賀県健康福祉部福祉総務課 佐賀市環境部循環型社会推進課 佐賀市保健福祉部福祉総務課
10.フードバンク間連携	①FB くるめ ②FB 協和 ③その他 FB 団体	・食品の融通と情報共有 ・新規立ち上げ FB との情報交流	①FB くるめ ②FB 協和 ③FB 大牟田 ④FB 福岡 ⑤全国フードバンク推進協議会 ⑥FB 山梨 ⑦FB アリス（岡山）
11.コミュニティスペースの活用	①貸会場	①貸出料金の設定 ②運営マニュアル作成	①利用のしおり、申請書作成 ②運営マニュアル作成

第2号議案

「2019年度事業報告及び決算」承認の件

(期間 2019年3月21日～2020年3月31日)

【経常収益】

(単位：円)

科目	項目	予算	実績	増減	備考
受取会費	正会員	300,000	162,000	138,000	
	賛助会員	40,000	38,000	2,000	
	賛助団体	200,000	150,000	50,000	
受取寄付金	学生	10,000	1,000	9,000	
	受取寄付金	50,000	419,438	△ 369,438	
	施設等受入評価益	0	0	0	
受取助成金・補助金		1,190,000	1,219,887	△ 29,887	きょうぎん未来基金19万、 コープ共済地域ささえあい助成91万8153円、 連合愛のキャン11万1734円
その他収益	コミュニティースペース収入	100,000	0	100,000	
	受取利息	0	4	△ 4	
	雑収益	0	9,000	△ 9,000	
経常収益計		1,890,000	1,999,329	△ 109,329	

【経常費用】

【事業費】

科目	項目	予算	実績	増減	備考
人件費	役員報酬	0	0		
	給料手当	120,000	0	120,000	週1回50週×3H×800円
	法定福利費	0	0		
	人件費計	120,000	0	120,000	
その他経費	地代家賃	192,000	120,000	72,000	
	賃借料	0	0	0	
	旅費交通費	50,000	79,390	△ 29,390	
	会議費	20,000	0	20,000	
	研修費	0	0		
	車両運搬費	30,000	0	30,000	
	備品購入費	756,000	603,702	152,298	
	印刷製本費	30,000	233,375	△ 203,375	
	広告宣伝費	0	45,000	△ 45,000	
	水道光熱費	240,000	169,432	70,568	
	雑費消耗品	182,000	122,435	59,565	消耗品事務用品雑費
	通信費	250,000	318,314	△ 68,314	
	施設等受入評価費用	0	0	0	
	減価償却費	0	0	0	
	諸謝金	20,000	0		学習会講師
支払手数料	0	5,756	△ 5,756		
その他経費計	1,770,000	1,697,404	58,352		
事業費計		1,890,000	1,697,404	192,596	

【管理費】

人件費	役員報酬	0	0	0	
	給料手当	0	15,427	△ 15,427	
	法定福利費	0	0	0	
	人件費計	0	15,427	△ 15,427	
その他経費	水道光熱費	0	0	0	
	地代家賃	0	0	0	
	賃借料	0	0	0	
	その他経費計	0	0	0	
	管理費計	0	15,427	△ 15,427	
	当期経常増減額	0	286,498		

【経常外収益】

経常外収益計	0	0	0	
--------	---	---	---	--

【経常外費用】

固定資産除却損	0			
経常外費用計	0			

【経理区分振替額】

当期正味財産増減額				286,498
前期繰越正味財産額				0
次期繰越正味財産額				286,498